

異常な行動

識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動発現時刻	就寝中か否か (就寝中:○、就寝中じやない:×)	覚醒直 後に発現	就寝中の場合、 就寝時刻から発 現までの時間	回復までの 時間	一眠りして 完全回復	体温	患者の記憶	睡眠障害 等の既往	睡眠障害 等の家族歴	光に対する 反応	他剤による 「異常な行 動」の副作 用	異常な行動に 関する既往症	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、 親が幻覚を見ていたよと言っているのか?)	旧資料No	
1	B02001634	1	年	男性	激越	2002/2/2 タ 1日2回 2002/2/3 1日2回 2002/2/4 1日2回 2002/2/5 1日2回 2002/2/6	2002/2/2	夕服用後	×	-	-	-	-	-	-	-	-	無	投与前2日目 入院。検査デント取容(投与前前日迄)。投与前当日 朝よりやや興奮の傾向があったことであった。夕方よりタミフル内服開始後、一日中声を出して騒ぐ状態があった。3日目 テオフィリンの影響を考慮し血中濃度を測定したが、6.96とむしろ低値。夜間は不眠とのことであった。5日目 タミフル中止。夜間は良眠。6日目 興奮回復。7日目 通常通りの機嫌となる。退院。一日中声を出して騒ぐ。	異-1-3	
2	B05000689	1	年	女性	激越	2005/3/15 1日2回 2005/3/16	2005/3/16	15:00	○	Yes	-	No	-	-	-	-	-	無	2005/3/15 夜、解熱するが夜間興奮状態で泣きわめく。2006/3/16(11:00)36.9°C午前中歩行ふらつき状態。昼食後午睡し目覚めてから号泣。異常な興奮状態で「手がつけられなくなった」と訴え18:30に再来院。2005/3/17昇奮状態少し落ち着く。歩行正常。(11:00)36.5°C(20:30)再び昇奮状態、フラフラ歩きとなり再びダイアップ坐剤使用を指示。	異-1-25	
3	B05022379	1	年	男性	①異常行動 ②低体温	2006/1/17 18:00 2006/1/18	2006/1/18	18:00	×	No	-	1時間程度	Yes	解熱過程	No	No	No	No	無	2006/01/17 (夕)A型インフルエンザ治療のためタミフル20mg投与。2006/01/18 (朝)本剤20mg投与。低体温(非重篤)(34°C台 高くて35.1°C)。(昼)行動異常(急に走り出して変な姿勢で止まる)を母が確認。(22:00頃)来院。入院にて経過観察。低体温。2006/01/19 (7:00)低体温は回復。退院。(入院中、行動異常なし) 行動異常は回復。インフルエンザ回復。	異-1-41
4	B06025418	2	年	女性	①激越 ②異常行動	2007/3/6 22:00 2007/3/7	2007/3/6	22:30	×	No	-	1-2時間	-	1度目は発熱持続 2度目は解熱過程	-	No	-	-	無	3/6(22:30)ベッド欄に頭をガングンぶつける。「窓を開ける」「点滴をはずせ」などの言葉を発して泣きわめく。約1~2時間でおさまりに眠。3/7(10:00)機嫌が悪くなり、頭をベッド欄にぶつけたり、部屋の窓をさして開けて欲しいとせがんだりする。	異-1-115
5	B07010111	2	年	男性	異常行動	2007/4/24 夕 2007/4/25 夕 2007/4/26 夕 2007/4/27 夕 2007/4/28 夕	2007/4/24	夕	○	Yes	-	-	-	-	-	-	-	無	2007/4/24 インフルエンザに対して、本剤75mg×2回/日処方。発症時に認められた自覚所見:発熱37.8°C。夕方より服用開始。異常行動発現(非重篤)。寝ていたはずなのに突然起き上がって部屋を走り回った。けがはなかった。2007/4/27 インフルエンザ回復。2007/4/28 異常行動回復。本剤朝服用後、投与終了。		
6	B03003860	3	年	女性	失見当識	2003/1/24 15:32	2003/1/24	夜 13:45	×	-	-	-	-	-	-	-	-	無	2003/1/22インフルエンザ発症。体温(38.3°C)、咳、鼻水、下腹痛、咽頭痛、倦怠感あり。(午後)体温(37.5~38.2°C)2003/1/23 (8:33)受診(38.3°C) 咳、鼻水、軽い下腹痛を訴える。2003/1/24 (15:32)体温(38.7°C)と元気なし。咽頭痛あり。インフルエンザAと診断し、タミフル60mg/日を投与。少しぼーっとした感じがあるが、返事あり。夜より、ねないで動きまわる。落ち着かず、キョロキョロするが呼んでも返事をせず、どこをみているのか焦点がさだまらない。ぼーっとしており全くしゃべらない。聞こえているのかもわからない状態になった。2003/1/25 (13:45)体温(36.9°C)と解熱するも上記症状が引き続きよくなり。痙攣なし。顔色良好。呼吸正常。多動傾向あり。麻痺なし。神経反射異常なし。瞳孔左右同大。対光反射あり。呼びかけてもだまったままで、キョロキョロする。周りに誰がいるかわからない。医師も母親もよくわからない状態であった。脳炎又は本剤副作用を考慮して他院へ紹介した。入院後の詳細は不明。EEG、MRI、髄液検査:異常なし。テオフィリン血中濃度がやや高値。2003/1/27 言葉ができるようになった。2003/1/31 言葉、行動とも正常になり退院した。以降、特に以前とかわりない。	異-1-16	
7	B06001533	3	年	男性	意識レベルの低下	2006/3/30 夕 2006/3/31 朝-夕 2006/4/1	2006/4/1	11:00	-	No	-	5時間	No	解熱過程	-	-	-	-	無	(11:00頃)急に興奮し始め、奇声を発しながら何度も何度も自分の額を打ちつけた。母親が押えつけたが、16時頃まで異常な興奮状態が続いた。(16:00)意識障害回復。その後、精神症状の方はおさまりに再発しなかった。	異-1-82
8	B07013311	3	年	女性	異常行動	2007/2/20 11:00	2007/2/20	15:00	-	-	-	No	発熱持続	-	No	No	No	No	無	2007/02 インフルエンザA型の診断にて本剤処方。午前11時ごろ1回目の服用。1回目服用4時間後位に、急に階段を駆け上がった。昼寝後(服用6時間後位)普段置いていない場所まで走りおもちやを探しにいったりといつもはみられない行動あり。寝る前に本剤2回目の服用。KT38度台。2007/02投与2日目 前日同様、熱が高くなりつつあり急に突然動き出すなど、いつもと違う行動が見られた。午前中KT38度台。午後には体温低下。その後症状なし。本剤は5日間飲みきったが、その後は症状なし。アンビパSp使用せず。	
9	B07013419	3	年	男性	異常行動	2007/3/16 10:30 2007/3/16 夕 2007/3/17 12:00 2007/3/17 夕 2007/3/18 朝 2007/3/18 夕 2007/3/19 朝 2007/3/19 夕	2007/3/16	13:00	-	-	-	10分	-	-	-	-	-	無	2007/3/16 (10:00)来院時は、39.6°Cの発熱、若干の咳があった。A型インフルエンザに対し、本剤60mg分2を処方。(10:30)本剤30mg服用。(11:00)二階で昼寝。いつもの発熱時同様、少し四肢をピクピクとする。(13:00)昼食を用意して、母親が二階へ。その時二階の大きい窓を開けて上半身を乗り出すようにしていた。母親が注意すると素直に従う。表情正常。いつもは母親の言葉になかなか従わず、わがままの点あり。返って不自然かなと母親は感じたとの事。(13:10)異常行動疑いは回復。2007/3/17 (朝)発熱なく服用せず。(12:00)40°Cの為、朝の分の本剤30mg服用。(夜)以降、発熱認めなかったが、その後も合計4日服用。		
10	B02001480	4	年	男性	①妄想 ②幻覚	2002/2/5 夜 2002/2/6	2002/2/5	服用1時間後 服用2時間後	×	-	未記入	-	-	-	-	-	-	-	不明	投与前当日 体温:39.3°C。1カプセル投与1時間後(夜間)に妄想、幻覚が出現。その後、妄想、幻覚は、おさまった。投与前翌日 朝、1カプセル服用2時間後に幻覚、妄想が出現。来院後、タミフル投与中止。(本人が包丁を持ち出した。その事を聞いてみると、持ち出したことは覚えていないとのこと)。	異-1-2
11	B05000876	4	年	男性	①意識レベルの低下 ②異常行動 ③尿失禁	2005/3/11 夕 2005/3/13	2005/3/13	12:00	×	No	-	13日5分 14日10~15分	No	発熱持続	No	No	No	No	無	意識がもうろう状態、意味不明の発語をしながら火がついたように泣き、母親に抱きつく。母の膝の上で尿失禁をする。夜、睡眠中突然起き上がり叫ぶ。壁をガングン叩く等の興奮状態となり、母親が声をかけやなだめても全く応じず、10分から15分くらいすると自然に再入眠をする。このような行動を1時間毎に4~5回繰り返した。	異-1-127
12	B06024911	4	年	男性	①激越 ②異常行動	2007/2/26 夕方	2007/2/26	17:00頃	-	No	眠中にむく くり起き上った	30分×数回 (くり返し)	No	くり返した	解熱過程	No	No	No	-	興奮状態が30~40分。その後大声で奇声を発し、怪えたように走りまわる。大人二人でからうして押さえる。単なる興奮というよりも、抑制しないと飛び出しかけないような暴れ方、事故につながるかねない様子。つじつまはあっているがしゃべりまくっていた。	異-1-99
13	B07000057	4	年	男性	異常行動	2007/2/28 不明	2007/2/28	服用30分後	-	No	-	-	No	発熱持続	-	No	No	-	不明	母親が姉を保育園に送っている間目を離した間に、道路を全速力で走っており、家につれて帰った後は、ベランダの欄を越えようとしていた。	異-2-13